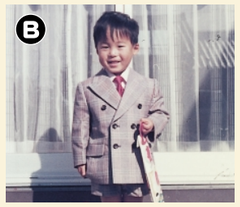
こんな頃もありましたね～！

この人はだれ？

今、浜松ＪＣで活躍している人達です。
さて私は誰でしょう？

答えはホームページで
確認してください。
JC手帳を片手にぜひ
見比べてみてください。
見る目が変わるかも…？

Ⓐ


Ⓑ

Ⓒ

Ⓓ

ご出産おめでとうございます

★山崎　将弘（まさひろ）くん
平成16年3月23日生まれ
山崎貴裕夫妻の長男（H13入会）

担当／竹内　一

クロスワードパズル

●たてのキー
1 端午の節句のお菓子といえば
2 豚まん、シュウマイ、小篭包、大根餅…
3 胃酸の量が多いこと
4 1海里／1時間
5 宮沢りえ「サンタフェ」を撮影したのは篠山○○○
6 見応えのあった貴乃花の○○相撲
7 アテネ五輪男子柔道100キロ代表選手
8 立命館大学の学生であり、歌手であり
12 巻貝の仲間で別名「流氷の天使」
15 円売りの反対は?
16 渇水、地震、工事などで停められる場合が多い
17 蕎麦に沢山含まれています
18 バカボンのパパが卒業した大学は?
19 ハブやマムシなどにある牙
20 名F1ドライバー○○・ラウダ
21 ○○の宮島

●よこのキー
1 ○○○○○○○○○委員会による義家弘介氏の講師例会は大盛況でした
9 ビジネスアカデミー委員会による経営能力○○○○○○
10 2003年グラミー賞8部門受賞、ファーストネームは?
11 州都はオリンピア
12 窒素約78%、酸素約20%
13 ○○○生＝弟子
14 ソニーのデジタル手帳
18 蛇腹を使った楽器でアコーディオンの仲間
20 東京地裁、青色LED特許訴訟で200億円の支払い命令
22 家に誰もいません
23 赤井英和、巨人の二岡智宏が卒業生、寺川綾は現役の学生です

□のマスの文字を並べ換えて
答えの言葉を作ってください。

ヒント　将来もらえるのか怪しいです

1	2	3	4	5	6		7	8
9						■	10	
11				□	■	12		
13	□		■	■	14			■
	■		■	15	■		■	16
■	17	■	18		19	□		
20		21				■	22	
23		□					■	

答えはホームページにて

作成／久保田　賢

～（社）浜松青年会議所ホームページのご案内～

みなさんホームページはご覧になっていますか？
広報誌に負けないぐらい充実させていきたいと思っています。
広報室コラムや広報誌連動企画は毎月更新しています。
メンバーページ内では委員会ごとに記事を載せられるスペースも用意しています。
各委員会で何か告知したいこと、メンバーに見てもらいたいことなど、必要があれば広報委員会までご連絡ください。
また、分科会のページにおいても活動報告が随時見られるようになっていきますので楽しみにしていてください。
http://www.hamamatsujc.jp/

担当／小池　宏明

R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています

2004年度
(社)浜松青年会議所 スローガン
夢への情熱で改新しよう！
自身を、組織を、そして地域を

第3号

JC広報magazine

Dreamer

2004年6月1日発行（年6回発行予定）
発 行／社団法人浜松青年会議所
編 集／広報委員会

http://www.hamamatsujc.jp/

大盛況！ 5月公開例会 義家弘介氏講演会

公開例会では、メンバー皆さんの多大なるご協力を賜わり心から御礼申し上げます。

今回の例会を開催するにあたり、今だから言えることですが、実は委員会内では講師選定からつまづいていました。例会を成功させるには「教育について話が出来る魅力ある講師」を選ばなければ！と考え、委員会では連日２４時を回る会議を行いましたが、いつも振り出しに戻って終わりで、条件を満たすことが出来る講師は考えつきませんでした。予算折衝の時、『初心に戻る』を教えてくれた理事長、副理事長の言葉を思い出し、一つ一つ壁をクリヤしなければいけないと思いつつ、でも見当たらない見当がつかない‥‥を繰り返し、片っ端からあたり、やっと出会った講師が義家弘介先生でした。

委員長としての自分は『やっとめぐり合えた講師だから…大切にしよう』と思い、講師：義家先生の講演先の群馬県まで足を運び、挨拶と公演内容の確認に行きました。まだ入会して間もないころ国際系の幹事をおおせつかり、海外まで現地調査に行った頃の"初心"がそうさせたのかもしれません。「海外に行くことを思えば近いところじゃないか」と開き直り群馬県まで行くと、『わざわざここまで来ていただき、大変光栄です。』とお返事を頂いたのが昨年の１０月のことでした。たった一言ではありましたが、『来たかいがあった』と胸をなでおろし、同時に講演内容に確信を持ち、公開例会にふさわしいと感じました。もっと講師を知りたいと思い「年が明けたら、北海道へ伺います」と約束をして、浜松へ帰ってきました。

そして、約束どおり今年の１月中村副委員長とともに義家先生のいる北海道（余市高校）へ行ってきました。１月の北海道は一面銀世界。現地では佐々木校長先生をはじめ皆様にあたたかく迎え入れていただき、 義家先生には講演の日程確認後行きつけの店に誘っていただき、 学生時代のことや子どものことについて閉店時間まで熱く語り合い、緊張と興奮と感激の１日を過ごしました。

浜松に戻り委員会メンバーに北海道での確認内容を伝え、「例会まで突っ走るしかない！」と更なる意思統一を図り、早々に広告の作業にとりかかりました。そんな中、ポスター作成のため北海道の写真館に問い合わせをすると、写真館の社長はなんと余市ＪＣのＯＢだった！という出来事もありました。 やがてポスターが出来上がり集客に入ると、８００名の募集に対し４０００名を超える入場希望者があり、嬉しい悲鳴‥‥とともに、 失敗や事故があってはならない状況だということを再認識させられました。人員配置、入出場時の段取りなど委員会内で熱い意見の交換やバトルが展開され、いくら時間があっても足らないくらいでした。そうした会議を重ね、心配ないと表向き、実は心配だらけの自分がそこにいました。

例会当日は早起き（本当は眠れなかった）しました。気にしていた天候もよく、早朝から会場準備を始め、やがて会場設営が完了し、例会開始。そして、気がつけば会場を埋め尽くす入場者数に自分自身が驚き、また同時に１０月に聞いた先生の熱弁、講演内容、今まで委員会内で検討相談を繰り返してきた場面、千歳行きの機内の様子、さまざまな場面が講演を聞きながらフラッシュバックし、残像として重ね合わせみえてきました。

こうした感動の約２時間を終了し、本当にＪＣメンバーの協力があってここまでこれた、 助けてくれた委員会メンバーがいてここまでこれた、 と感謝やありがとうの気持ちがこみ上げてきました。又、それは期間中私を理解し見守ってくれた会社の従業員に対しても同じ気持ちでした。

私事ではありますが、５月１５日は弊社社長であり、父の誕生日でした。父には今日まで「ＪＣばっかりやりやがって仕事もしろ！」と思われていたかもしれません‥‥が会場に来てくれていました。入場券がささやかなプレゼントになったかな？などと勝手に想像しています。

支えてくださった皆様本当にありがとうございました。情熱を持って例会に協力していただいた皆様に感謝いたします。

（家庭の教育委員会 委員長　山内　良友）

4月例会 直前 プチインタビュー 川村　透 氏

2004年4月15日（木）19:00よりグランドホテル浜松「孔雀の間」にて4月例会が開催されました。当日、講師の川村透氏に、JCや人間力の考え方についてなど、例会直前にインタビューいたしましたので紹介させていただきます。

講師の川村氏には、事前に、人間力について資料を読んでいただきさまざまなご意見をお伺いしました。そんなことを念頭に、インタビュー記事をご一読いただければ幸いです。

記者●人間力という概念についての印象は？

川村氏（以下川村）●人間がパワーを持つ為には、まず第一に自分の可能性を１００％信じきるかどうかということが不可欠ではないでしょうか。言い換えれば、自分を出来る人と扱うか出来ない人と扱うかで、パワーがでるかでないかで変わってきます。僕は、自分はずっと出来ない人だと決めつけていたが、「自分への見方を変えたことで、今まで出来ないと思っていたことが出来る」と初めて気付いたのが３０歳の時でした。自分を出来る人だと扱うこと、自分の可能性を信じきることがベースにないとアイデンティティとか自己責任が出てこないのではないでしょうか。

記者●では、どうすれば自分が出来る人間だと思うことができるか？

川村●自信を持つには根拠はいらない。自信を持つ為には経験とか実績とかがないといけないと思うかもしれないが、「自分は絶対にできるんだ」という一種のハッタリみたいなものを信じきれるかどうかということでガラっと変われた。自分に厳しい方が多いので、 もっと自分のハードルを下げたほうがいい。 ちょっとのことが出来ると、それを出来るものとして考えると一歩がすごく踏み出しやすくなる。悪いところを潰すより良いところを出したほうが早いですしね。

記者●日本人は自分をあまり誉めませんよね。

川村●もっと自分を誉めてもいいんですよね。自分にご褒美を買ってあげるのもいいのかも。

新しいことを始めるときは必ず周りは冷たい。世の中全てそうで、ちょっとまわりに言って反応が悪いとあきらめてしまうのがほとんどでしょう。自分も本を出した時に周りから冷たい反応を受けましたが、自分が本当にこれはすごいんだって思ったら、そこで曲げてはダメですね。組織って１０％変わればだんだん変わっていくじゃないですか。まずは自分が先頭に立ってバカになるというか、自分で実践していく強さは必要だと思います。自分が恥ずかしい、失敗するのではないかという先に答えがあったりします。意志より成功するイメージのある人のほうが強いです。意志なんて今やるぞと思っても明日になればなくなっちゃいますからね。決断する必要はない。こうなったらいいな～と常に頭に描いているとそうなりますね。

記者●２月に行なった蒲郡ＪＣでの講演はいかがでしたか？

川村●今まで１０ヶ所の青年会議所で講演させていただきました。蒲郡ＪＣでは「自分を変える　ものの見方を変える」という題で行ないました。４０名くらいのメンバーが参加してくれ、積極的で、講演の雰囲気は非常に良かった。

記者●浜松青年会議所以外で、浜松で講演をされたことがありますか？

川村●昨年、本田技研の社員研修をさせていただきました。２部構成で行ない、始めは一般職員の方に講演して、２部は工場のユニットリーダーの方向けにコーチング研修をワークショップ形式で行なって楽しかった。

記者●最後に、講演を聞く側のモチベーションをあげる方法は？

川村●「僕にもできるんだ！」と思わなきゃダメなのではないですか。自分もあの人だから出来たんだと思われないようにしている。

記者●本日はよろしくお願い致します。

新しいもののみかたの提案　私たちは、目の前にある現実を変えることはできませんが、もののみかたを変えることにより、自分にとっての現実を変えることができます。自分の可能性についても同じです。自分をできると思うも、できない人と思うも、その人次第です。私のミッションは、講演、出版、執筆活動などを通して、ひとりでも多くの人に、自分の可能性や、ピンチはチャンスであること、そして新しいことに挑戦することのおもしろさに気づいてもらうことです。

川村　透

●川村透氏 事務所ホームページ http://www.tkoffice.com/

取材／山下　里栄子　　協力／人間力開発委員会 柴田委員長

事業案内

トピックス　講師例会　ビジネスアカデミー委員会担当

ビジネスアカデミー委員会委員長の伊藤剛でございます。６月２４日（木）の講師例会についてご案内をさせていただきます。今回は元吉本興業常務の木村政雄氏を講師にお迎えし、『新たなことに挑戦しようとする組織づくり・人づくり』をテーマに講演をしていただきます。木村政雄氏は吉本興業時代には数々の事業で陣頭指揮をとり、組織づくりにおいても新たな試みをし、組織の活性化に努め会社の発展に貢献してこられました。木村氏の最も得意とする、組織改革、人づくりを中心に吉本興業時代の裏話を交え、講演していただきます。講演の中には、我々メンバーが日頃会社経営において、不安に感じていることを解決できるヒントが必ずあります。

ぜひ６月度会員例会に参加して、企業経営のヒントを見つけていただきたいと思います。皆様の御参加を委員会メンバー一同お待ちしています。

日 時 ● 6月24日（木）19:00～　　場 所 ● グランドホテル浜松「孔雀の間」

木村政雄氏

ごあんない　6月～7月の開催事業予定

日 時		場 所	時 間
6月５日（土） ～13日（日）	とうかい号　見送り とうかい号　出迎え	名古屋港ガーデン埠頭（集合 遠鉄百貨店南側バス乗り場） 名古屋港ガーデン埠頭	9:20～19:30 9:20～18:00
6月13日（日）	わんぱく相撲県大会	焼津市営相撲場（雨天決行）	9:30～14:00
6月19日（土）	地域の力育成委員会事業「昔の遊びでコミュニケーション」	積志小学校	9:00～12:30
6月24日（木）	講師例会「新たなことに挑戦しようとする組織づくり・人づくり」	グランドホテル浜松「孔雀の間」	19:00～21:00
6月28日（月） ～7月1日（木）	東海GTS2004見送り 東海GTS2004出迎え	名古屋空港（集合 グランドホテル浜松） 名古屋空港（集合 グランドホテル浜松）	5:20～12:30 5:50～12:00
7月４日（日）	静岡青年会議所50周年式典	グランシップ	13:00～
7月10日（土）	東海フォーラム（高山）	飛騨・世界文化センター	6:30～24:30
7月15日（木）	会員例会（入会式）	グランドホテル浜松「孔雀の間」	19:00～21:00
7月17日（土）	第3回献血	ギャラリーモール（遠鉄百貨店北側）	9:30～16:30
7月18日（日）	磐田青年会議所40周年式典	事務局へお問い合せください	
7月22日（木）～25日（日）	サマーコンファレンス（横浜）	パシフィコ横浜	
7月25日（日）	第20回わんぱく相撲全国大会	両国国技館	8:30～17:30
7月28日（水）	人間力開発委員会事業「魅力ある人づくり」	アクトコングレスセンター	19:00～21:00

PICK UP　サマーコンファレンス 2004　FUN to TRY Slow Society!　7月22日（木）～25日（日）

私たちは欲しいものを欲しい時に得ることができる便利な時代に生きています。Ａ地点からＢ地点に移動することも車やタクシーを使えば短い時間で行えます。もしその距離をゆっくり（スローに）歩いたらどうでしょう。足元に小さな花が咲いていることに気がつき生命を感じるかもしれませんし、爽やかな風を肌に受け季節の訪れに心躍らせるかもしれません。

現代社会の我々が見失いがちなものを取り戻し、明るい豊かな社会を目指す運動が２００４年度の日本青年会議所が掲げる「スローソサエティの実現」というテーマです。これを国家アイデンティティとして全国に発信する大会として位置づけているのがサマーコンファレンス２００４であり、「FUN to TRY Slow Society!　～スローソサエティを楽しもう～」 というスローガンのもと横浜にて７月２４日（土）と２５日（日）の２日間にわたり開催されます。

「競争ではなく共生的な価値」を重んじ、「結果重視よりプロセスを重視」し、「お金より時間を大切に」し、「参加型の環境派」でいようという、新しい価値観を表現したのが「スロー」というキーワードです。人生８０年とすると、私たちは７０万時間を生きることになります。そのうち仕事で使うのは７万時間にしか過ぎません。なのに日本では大切なものの１番か２番目に仕事が来る。スローフード発祥の地・イタリアでは、仕事は１０番目くらいです。何に価値を感じるかは人それぞれあっていい。緩急自在に人生を楽しむ社会にしていくこと。それがスローソサエティの実現です。

こうした価値観をテーマにした事業計画を作るのは大変ですが、自分としても浜松ＪＣへの最後のご奉公として、一緒に出向してくれた７名の浜松メンバーと共に頑張ります。パシフィコだけでなく横浜港大さん橋ターミナルが舞台となる、いままでと違ったサマコンを感じてください。皆さんのお越しをお待ちしています！

サマーコンファレンス運営特別委員会の皆さん

文／サマーコンファレンス運営特別委員会 副委員長　小野　晃司

広報委員会的 スローソサエティ 音楽編

今年度、日本青年会議所は地球という大きな循環と地域の小さな循環との調和の取れた、つながりがこれからの「明るい豊かな社会」像として、その実現に向け、「スローソサエティ」を提言いたしました。それでは、私達はどの様にしてこの「スローソサエティ」に取り組めばよいのでしょうか?と、書くと非常に難しく感じますが、むしろ頭で考えるよりスローを体感する事で、今まで気に留めていなかった「人と人・まち・自然」のつながりの大切さが見えてくると思います。
今回、「音楽のまち」浜松からみたスローな音楽を特集します。音を楽しみながら様々なつながりを自身の心の中で想い描くことで「スローソサエティ」の第一歩が始まると考えます。

浜松交響楽団

浜松交響楽団の設立趣意書によれば、『楽器の都を音楽の都に』又『郷里(まち)に文化の香りを』等、市民の願いが日毎に強まるのに注目せざるをえませんとあります。音楽芸術という文化は、言うまでもなく国境や世代を越えて人々の心に語りかける優れた文化遺産であると確信致します。これらの点を踏まえ、将来『市民の誇り』として又、市民の『財産』として永遠に残ることを願い、28年前に市民の総意、JC全国大会の記念事業として浜松交響楽団が設立しました。そして、昭和53年(1978)年には、財団法人格を取得しました。現在でも、日本唯一の財団法人であるアマチュアオーケストラです。
浜松の町が「楽器の都から音楽の都へ」成長していく中、浜松市の音楽振興課設置や国際オペラコンクール提唱から国際ピアノコンクール開催などに、浜松交響楽団も多くの影響を与えてきました。
設立の動機に、『楽器の街を音楽の街に』というスローガンを掲げ、浜松近隣のアマチュア音楽家に呼びかけ、オーディションで選ばれたメンバーによりスタートしました。この働きかけがマスコミに取り上げられ、それと同時に、これが浜松市の一つの方向性ということになり、浜松交響楽団を市全体で取り組んでいくことになりました。また、浜松交響楽団というのは、音楽の街づくりに熱心な音楽団体という認識が、市民・行政の間で評価され浸透していくことによって、浜松市の一つの目標である『音楽の街づくり』に参画することになり、市制記念日には浜松交響楽団が演奏することになりました。こうした市民・行政・浜松交響楽団が三位一体となり、毎年市制記念コンサートが行われています。今年も7月4日(日)には、アクトシティ浜松中ホール(PM2:00)にて、『市制記念日を祝う音楽のつどい』を開催いたしますので、皆さんも是非足を運んでみてください。その他年5回の演奏会を年間の基本の行事として活動しています。

●(財)浜松交響楽団 事務局
浜松市東伊場1−3−1 グランドホテル浜松3F
TEL.053−454−6722 FAX.053−455−3563
●ホームページ **http://www.kbs.co.jp/hamakyou/**

取材/竹内 一

シンガーソングライター 畑中 摩美さん

1980年浜北市出身。シンガーソングライター。高校1年生より作詩作曲を始め、バンドを組んで浜松市内でライブ活動を始める。高校3年生より浜松駅で路上ライブを行ない、高校卒業後上京。1999年12月、ミニアルバム「一粒のワタシ」でCDデビューを果たす。2003年10月、2枚目のミニアルバム「白い花が秘めるもの」をリリース。現在東京都内のライブハウスで活躍中。今年の秋には浜松で演奏が聴けるかも・・・?

自分自身が音楽に助けられ前向きになった経験を持つという摩美さん。それが摩美さんの作り出す音楽の原点だ。「自分の演奏する音楽でいやなことを忘れ元気になって、聴いていていい気持ちになって、何かを感じてくれたらいいですね。人間が本来持っている人間力みたいなものを表現していきたいです。」と語る。曲作りの中で摩美さんが大切にしているものは「自然」と「人」と「人とのつながり」。話すことが苦手な摩美さんにとって音楽は表現手段。音楽には形がありませんが、音楽を聴いて楽しかったり、癒されたりするすごい力を秘めています。そんな摩美さんの音楽は癒し系。芝生の上でアコースティックギターをかかえ奏でる音楽は、そよ風に乗って確かに自然に溶け込んでいくようでした。音楽と自然のつながり、人と人とのつながりを大切にする音楽だからこそ人の心を癒すのだろう。今興味のあるものは自分を含んだ人間。今後も歌い続け、音楽で自分を表現していきたい。

●畑中摩美さんホームページ **http://www.cims.ne.jp/mami/**

取材/山下 里栄子

WHO is HERO?

WHO IS HERO? とは、夢に向かって自分を表現したい人、一人では出来なくても仲間とだったら出来ると思う人、思い出を作りたい人、目立ちたい人、発表の場を探していた人等、とにかく演奏・パフォーマンス、ジャンルを問わず発表の場を多くの人に提供していきたいと有志の方々が集まって企画・運営しているイベントです。WHO ISHERO? 実行委員会の去年度運営部長補佐の久永秀則さん、山本泰子さんにお話をお伺いしました。
WHO IS HERO? では気軽に参加したり、発表したり、運営したりできる場を市民の皆さんに提供したいと考え発足した企画で、一昨年、去年と約50団体約200名の方々に出場していただき、年齢、性別、発表の内容問わず、楽しくパフォーマンスをしてもらいました。「音楽のまち・浜松」にふさわしいコンテストとして、音楽演奏やダンスはもちろん、草笛奏者、漫才、マジック、腹話術、はたまた犬の調教まで幅広いジャンルも多岐にわたっています。この中から未来の輝くスターが現れるかもしれません。上手下手は関係なく、出演者もスタッフも楽しんで運営しています。同じ地域に住む人々がいろいろなパフォーマンスを持ち寄り、お互いに楽しみ、このイベントを通じて多くの人と知り合い、仲間を増やしてもらいたいと思っています。そしてこのイベントがみんなの手で末永く続くことを祈っています。次回は2004年11月21日クリエイト浜松での開催を予定しています。みなさんもぜひ参加または運営に携わってみませんか?詳しくは実行委員会までお問い合わせください。

去年度 運営部長補佐の久永さん(左)と山本さん

●お問い合せ先 WHO IS HERO? 運営委員会事務局 TEL.053−456−5288

取材/小池 宏明

人と植物ふれあいコーディネーター 草笛奏者 加茂 光廣さん

日本古来から伝わる草笛を広める為に幼稚園、小学校、地域のフェスティバルなどで活躍中。木の葉、野菜、花など、いろいろな植物を使って各国の名曲を演奏している。現在浜名湖花博で40日ほど演奏が予定されている。その美しく懐かしい音色に足を止めて聴き入る人が多い。
「人と人の間に植物が入るだけで心が和み、人間関係も円滑になる。植物そのものがスロー。スピーディーで合理的になった現代だからこそ、意識してスローな生活を楽しむようにしています。」と語る加茂さん。体調を崩したことがきっかけで思うような生き方をしたいと望み、7年前にフラワーパークを脱サラし、草笛に魅せられて自らこの世界に飛び込んだ。携帯電話も持たない不便な生活がおもしろいという。スローな生活を楽しむ為には、まず五感を活性化して好奇心を持って生きていかなければ楽しめない。加茂さんにとってスローな音楽とは「手作りの音楽」だという。もともと草笛は山岳少数民族が男女の恋心を伝える情歌として用いられていたそうだ。草笛に高価な道具はいらない。いつでもどこでも生えている草で楽しむことが出来る。忙しい毎日に人間性が損なわれていく現代、時代そのものが求めているのがこうした音楽なのかもしれない。
草笛を通じて人とかけあうことが大好き。今後も自然と共生しながら、のんびりだけどしっかりと生活を楽しみたい。そしてゆったりとしたモノから離れた生活を続けていきたいそうだ。そんな加茂さんの奏でる音楽が、春風と光の中で心にとても心地よく響いていた。

取材/山下 里栄子

今年で19回目を迎えるNewムーンライトコンサート。9月のお月見の時期に合わせ、湖面に映る月を見ながら自然と音楽を楽しむ野外コンサート。約40戸100人の天竜市月(つき)という小さな地区で、もともとは村興しの一環として若連が運営していたが、平成12年16回目より、天竜市月婦人部が企画運営を任され現在に至る住民手作りの演奏会だ。昨年も550人ほどの観客が訪れ、東京や大阪からわざわざ訪れるリピーターもあり、口こみで年々広がっているという盛況ぶり。昨年は「ケーナ」に天竜市出身の岡田浩安さん、「アルパ」に志賀昭裕さんを迎え、自然の中の特設ステージでアンデス音楽が演奏された。アンデス地方の民族音楽が水面を渡る風に乗り、自然の中に人間が吸い込まれていくような一体感がこのコンサートの醍醐味だ。一度訪れるとその非日常的な空間がやみつきになってしまう。実行委員長の内山京子さんは、「この村を何とかしたいという思いからここまで走ってきました。50代が9名という婦人部だけでなく、村全体が一致団結して行う一年に一度のお祭さわぎです。来年は20回目を迎えるので今から企画を考えています。慣れが大変なので毎年趣向をこらしていて、昨年はおみやげに手作りのお餅を配りました。」と語る。毎日の人と人とのつながりを大切にしている地域だからこそ、人の心を打つ感動的な音楽が生まれるのだろう。
自然と一体化する音楽。そんなスローな音楽を是非体験してみて下さい。

●2004年9月25日(土)天竜市月艇庫前にて、前売券¥1300、当日券¥1500
●前売券の予約は内山さんTEL.0539−23−0404まで

取材/山下 里栄子

スローソサエティ研究委員会 鈴木真委員長からのひとこと

音の楽しみ方は人それぞれ千差万別・十人十色?ですが、まずは外に出て浜松の音を探してみましょう。浜松は海・山・川・湖が意外と身近にあります。その自然の中で、四季折々の風が運ぶ様々な音を聴くことで、いろいろなことを感じたり、考えたりして想像力を広げ、心の内面を充実してみてはいかがでしょうか?
そして、その音が次の世代にも聞かせることができるには、今、何をすべきかを今度はみんなで考えることで、人・自然のつながりの環ができるのではないでしょうか。自然の音を例に上げましたが、他にも様々な音があります。生活の音・ものを作る音・聴かせる音・・・。いろいろな音を楽しく聴けることができる「心」を耕すことが私達に必要なのかもしれません。

あの人は今？ ～浜松JCの功労者達～ 第3回 佐々木 雄三 先輩

― 浜松JCに在籍、活動しての思い出や役に立っていることなどをインタビューさせていただきました ―

ＪＣに入会して思い出に残る出会い

PROFILE
昭和16年12月4日生まれ（62歳）
株式会社 ビオラ田町 代表取締役社長
昭和43年入会、昭和56年卒業

ＪＣとは青年学校だと言い聞かせ４０歳になれば卒業するけれど、それまではいろんな事を勉強できる。私にとってのいい人財はＪＣで出会った人が多い。全国北海道から沖縄まで何処へ行っても知り合いがいる、日本青年会議所（以下日本ＪＣ）へのきっかけを作ってくれた人との出会いがあり、２８歳のときに日本ＪＣの指導力開発委員会にはじめて出向することになりました。彼が翻訳した『リーダーシップインアクション』を私も勉強し、その後各ＬＯＭでも取り入れ指導力開発のテキストとなりました。

ＪＣに入っているから出会いがあるのではなく自分から生かしていかないとダメ、本人の意識が大切なのではないでしょうか‥‥

ＪＣ会館建設にあたってのエピソード

私が、浜松青年会議所で（以下浜松ＪＣ）第２７期理事長のとき、次年度日本ＪＣ会頭が麻生太郎先輩に決定しました。会頭予定者より次年度浜松ＪＣから日本ＪＣへ委員長をどうしても輩出してほしいとの話がありました。私は何もしなくていい委員会だったらという事でＪＣ会館特別委員会の委員長を受け、ＪＣ会館の建設に携わることになりました。最初は何気ない気持ちで受けた委員長でしたが、問題の山積み。一時は図面まで出来上がっていたのに白紙撤回の一からスタート、そして土地探しから始めましたが予算が２億円と限られている為にいい物件がなかなか見つかりませんでした。

麻生会頭と一緒に鹿島建設社長を訪ねたこともありましたが条件面で折り合いがつかず断られたこともありました。

そんな年末も差し迫った時、大成建設から土木部の設計室をＪＣ会館にどうでしょうとの声がかかりました。当時にしては破格の値段での提示だった為、日本ＪＣ最終理事会で協議に掛け購入しようという運びになりました。翌年は、担当副会頭で日頃からお世話になっていた井奥先輩が会頭に決定していた為に私は引き続きＪＣ会館特別委員会を担当することになりました。（単年度制のＪＣでは２年連続は珍しい）

購入したものの、当時は近隣住人の反対・地下鉄への反対で一坪運動などがあり、反対者の家に足を運び説得する日々が続きました。また破格の値段とはいえ、東京の一等地ということもあり予算の２億円ではとても購入することが出来ず委員会で資金を準備することになりました。悩んだ結果ＪＣ債権を発行し、その結果各ＬＯＭのＪＣ基金で債券を買って頂き１５億円、そして個人の寄付で３億円ほど集まり、無事ＪＣ会館を購入することが出来ました。

ＪＣとは

青年の情熱をかきたてるような団体でなくてはいけない、ＪＣに入ったがゆえに自分を磨き上げるようにしてほしい。ＪＣに入ってしまえば企業規模の大小は関係なく皆が同じ土俵に上がってしまうので、お互いに人の良いところを取り合えばいい。また悩みを打ち明けられる人を作る、その為には大胸筋を開け。『ＪＣとは連続の不連続』、基本は連続、その反面単年度制なので不連続。それをどうつなげていくかということを日々しっかりとやっていけばそれが連続となる。

（文／竹内　一）

ビオラ田町社長室にて

広報委員会がおすすめするホームページサイト

カービュー
http://www.carview.co.jp/

JCホームページにリンクがのっています

これから車を買おうとしている方、ライバル車比較という項目があるので参考になりますよ！

推薦／久保田　賢

子育てまめ知識

こちらのコーナーでは子どもの心理学に関する
ちょっとしたまめ知識をご紹介します。

Vol.3 知能の発達と家庭環境

知能に関する伝統的な研究法に家系調査法があります。それによって優れた頭脳の持ち主の血縁者にそうした人達が多いと思われてきました。従来、これは遺伝的規定の強さを示すものと考えられてきましたが、最近では、同一の家族や血縁者の環境条件の類似性によるところが大きいと考えられています。つまり、その家庭あるいは家系に特徴的な子どものしつけ方や養育態度、あるいはモデリングなどがあり、それらが大きな役割を果たしていると考えられているのです。幼児期から青年期までの知能の発達にともなう調査から、親子間の親密度は児童期に入る頃から高くなり、とくに母子間の類似性が顕著になるという結果がでています。そして、知能の高い児童群の母親では、共通して幼児期から児童期にかけての愛情ある母性行動と敏感な応答性が特徴としてあげられています。

また、言語性の知能と教育態度との関係を明らかにする調査結果から、高能力群の母親に次のような特徴がみられました。①幼児期から言語的刺激（読み聞かせ等）を多く与えている。②児童期になって物語の本を多く与えている。③食事時などの会話に参加させている。④子どもが失敗してもあまりとがめない。⑤幼児期から注意深さをしつけている。⑥学業成績への期待が大きい。⑦求められてはじめて援助を与える・・・など。言語は知的活動の道具であり、豊かな言語環境によって優れた言語能力をもつことは、知能の発達を確実に効果的にすすめることにつながると考えられます。また、注意深さのしつけは、次のような意味でとくに注目されます。注意深さのしつけとは、具体的にいえば、１つ１つのことをていねいに確実に行うように習慣づけることです。このような習慣行動は、反復訓練あるいは認知的発達によってしだいに速くできるようになり、児童後期には「速く確実な」行動型として安定化していきます。これは、課題解決能力の重要な要素の１つです。ところが、幼児期から子どもを「はやく、はやく」と急がせ、いつもいいかげんなやり方で行う習慣をつけてしまうと、後でていねいに確実に行うよう訓練しても、なかなかそれを身につけさせることは難しいのです。幼児期から児童期にかけて、子どもの気持になって応答し親のペースを押しつけない養育態度は、子どもに対象や課題場面を的確に把握する構えと一定の活動を正確に遂行する行動型を形成する上で重要な意味をもつと考えられます。

また、親の拒否的・専制的な態度や経済的な問題は、子どもの心理的な環境を狭め、自発的な活動に抑制的に作用し、経験の拡充を制限することが確かめられています。知能の発達は、子どもが環境に積極的に働きかけ多くのことを見聞し、多様な経験をすることによってすすめられます。したがって、子どもの順調な知的発達を期待する時、効果的な経験が豊富に与えられるように環境を整備し、同時に子どもの知的発達にかかわる養育態度への理解をもつことが重要な要因となっていきます。

「児童心理学」より

文／大石　江理

HAMAMATSU JC
広報 magazine
Dreamer

編集後記

みなさん、今回のDREAMERはいかがでしたでしょうか。前回まで以上にスタッフが苦しんで生まれた広報誌です。楽しんでいただけたでしょうか？
このDREAMERは単に事業報告としての役目はWEBに任せて、特に読み物として皆様に楽しんでいただけるよう心がけて作成しています。
どのような記事を組んだらメンバーに楽しんでもらえるか？どのような書き方をすればもっと面白くなるか？どんなふうにすれば今年の方針に沿える特集が組めるか？などスタッフ全員が企画から取材、校正まで一丸となり一生懸命作り上げました。
これは歴代広報委員会の中でも新しい試みだと思いますので多少の乱筆や変わった表現なども今年度なりの個性だと思って温かく見守っていただければ幸いです。
このDREAMERは私たち広報委員会の「事業」です。
次号もスタッフが必死で構想を練って作り上げていきますのでどうぞこれからもよろしくお願いします。

広報委員会　副委員長　　小池　宏明

【2004 広報委員会編集スタッフ】
広報委員長　山下　里栄子
副委員長　小池　宏明　竹内　一
幹事　大石　江理　嶋津　昌弘
委員　江間　徹士　折山　哲康
河村　浩利　久保田　賢

〒432-8036
浜松市東伊場1-3-1グランドホテル浜松 内
社団法人 浜松青年会議所
tel.053-454-6721
fax.053-455-3563
URL
http://www.hamamatsujc.jp/
E-mail
room@hamamatsujc.jp